

～ACPに基づくケア～

「やりたいことリスト」で支え、歩む



ACPとは？

人生の最終段階における医療・ケアについて本人・家族・医療ケアチームが
日頃から繰り返し話し合い共有

アイル浜西では、「その人らしさ」を最優先に考えるためにACPに積極的に取り組んでいます。



アイル浜西が考えるACPへの考え方

- ・ 治療だけでなく、生きる、その人の時間”を支えるケア
- ・ 日常のケアや、生活リハビリを通して信頼関係を築き、ACPを自然に始められる関係作り
- ・ 医療的判断と、“心の希望”のバランスを重視



やりたいことリストとは？

その人が“本当にやりたいこと”を言葉にしてもらうリスト

ケアの方向性を「本人の希望」から導き出す

例

- 息子と旅行に行きたい
- 孫に会いに行きたい
- 家族と一緒に食事をしたい
- 飼っている犬に会いたい

やりたいことリストの目的

- ・ 人生の最終段階であっても「楽しみ」や「希望」を大切にすることが、QOLの向上に直結する。
- ・ 価値観を共有することでACPの土台が自然にできる。
- ・ 「やりたいこと」は医療・生活・人間関係など多面的に“その人らしさ”を可視化する鍵になる。

やりたいことリストの進め方

- 1，初回面談や、日常の会話で拾い上げる
- 2，スタッフ間で共有し、支援の方向を決定
- 3，ご家族、他職種との連携し、実現へのサポート
- 4，本人と家族に寄り添いながら、医療、看護、生活リハビリの提供

聴取の方法：自然な会話から引き出す

会話例（雑談の中から）

- ・「最近嬉しかったことはありますか？」
- ・「子供の頃、好きだったことはなんですか？」
- ・「今、してみたいことはなんですか？」

対話のコツ

- ・否定せず、「いいですね、それいいなあ」とまず共感する。
- ・具体化を焦らず日常の話から感じとる
- ・家族や過去の写真・思い出の品から引き出すのも効果的



言葉にすることのメリット

- ・ **ぼんやりとした「思い」を整理できる**

言葉にすることで初めて具体的な行動のヒントになる

- ・ **周囲と「共有できる」**

本人の価値観や望むことが他者に伝わる

- ・ **本人が「自分を再確認」できる**

自分自身との対話が生まれる

- ・ **「実現の一步」に近づく**

周囲が動ける余地になる

- ・ **「今を生きる」力になる**

希望や安心感が生まれる

この取り組みがもたらすもの

- ・ 本人の意思が可視化され、関係者間で共有しやすい
- ・ ケアに納得感と暖かさが生まれる
- ・ 家族にとっても、“支えることができた”という満足感を与えられる
- ・ スタッフ自身のやりがいの向上

アイル浜西のACPは“その人らしさ”を引き出す 「やりたいことリスト」から始まる

- ・看護の枠を超えた、人生のパートナーとして、
最期まで“あなたらしく”生きるお手伝いをします。

Thank you
ありがとうございました

